

iwork-pro.jp

クリックして Webサイト/ アクセス

.9-7

iwork News Vol. 24







ンダガーデニ

皆様こんにちは。花粉症にやられている野原です。

さて、昨年の4月も「桜」をテーマにアイ・ワークNewsを担当しまし たが、今年も「植物」つながりで私が担当させていただきます。

私はガーデニングが好きで、ベランダで花や多肉植物を育ててい ます。鉢を置くスペースがなくなりつつあるので「もう新しいのは買 うまいっ!」と決意するのですが、ホームセンターに行くと簡単に心が 揺らぎます(笑)。簡単に心が揺らいだ結果、先日新しい子を2鉢 お迎えしました。多肉植物の「ハオルチア」と「ゴルビュー」です。

ハオルチアは多肉植物の中でも特に好きな種類で、先が丸くて 可愛いものや、透き通っていて綺麗なものなど、色々な品種があり ます。ツル状に伸びた茎に連なって小さな白い花も咲かせます。私は 白いものしか見たことがありませんが、ピンクの花もあるようです。

もう一方のゴルビューも、つり鐘のような赤い可愛い花を咲かせ ます。既に蕾がついているので、今年は上手く咲かせられるように しっかりお世話したいと思います。図鑑に載ってるようなわさわさ 花がついた姿を見るのが目標です!

たまーに面倒くさい時もありますが(笑)、しっかりお世話して 立派に育った姿を見ると嬉しく思います。

やっぱりガーデニングは私の癒しです。









滋賀と自宅をこよなく愛する デザイナー 野原 A.NOHARA

職員。研修会

2025/2/28

顧客への理解を深め、デザインの知識を学び、よりよい仕事ができるようになることを目的として、2月28日、全職員研修会を行いました。 午前中は全国大学生活協同組合連合会専務理事の中森一朗さま、午後は京都芸術大学講師の 平野拓也さまに講演いただきました。

「大学生協の現状とこれから」のお話では、大学生協さまの制作物を作る上で、大学生協さまはもとより、大学や大学生の現状について知ることの重要性を改めて感じました。これからも、より大学生協さまに「寄り添った」形でのご提案やサポートを続けていきたいと思います。

「デザインの力でまちおこし」のお話では、デザインをする時に、ついつい形から、見た目から入ったりしてしまいがちですが、デザインにおいて一番大事なことは制作の前段階における「観察や分析」である、ということを原点に立ち返って再認識することができました。理解できているつもりの事を、再度学び、定着させる貴重な機会をいただきありがとうございました。

職員研修会という貴重な機会を通じ、普段の仕事への理解が深まりました。研修会で学び、気づいたことを今後の仕事内容や姿勢に生かしていけたらと思います。私たちが作ったものを手に取る人たちの立場に立って、利用しやすさや見やすさ、なにが魅力的にうつるかを考え、制作していきたいです。

"インドアな旅人" デザイナー 島田 M.SHIMADA



^{大学生協の} 現状と**これから**

中森一朗氏

全国大学生活協同組合連合会 専務理事





アイ・ワークでは、大学生協さまから多くの制作物のご依頼をいただいております。入社して間もないスタッフもいるため、大学生協って何?といったところから現状の課題や今後について、全国大学生活協同組合連合会の専務理事でいらっしゃる中森さまにお話をいただきました。

コロナ禍での大学生協の取組みや、大学生の変化についてのお話(新しい学びの姿)、大学生協における再生基本計画について等、普段中々聞く機会もないので、大変勉強になりました。

また最後に中森さまから、厳しい経営環境の下で業務を遂行されている生協職員の方に「寄り添ってください!」とのお言葉をいただき、スタッフ全員で力を合わせて「寄り添ったお手伝い」をしたい!と改めて決意しました。

デザインの力で ^{まちおこし}

平野拓也氏

平野拓也デザイン事務所 / 京都芸術大学教員





デザイナーで京都芸術大学講師の平野拓也さまにお越しいただき、ご講義 いただきました。

平野さまのユニークな経歴や、学生さんと一緒にデザインの力で商店街のまちおこしを行った事例(プロセス)のお話は、デザインの可能性を改めて感じさせるものでした。

また、「デザインする上での大切な考え方」や「基礎の大切さ」についてもお話しいただき、弊社のデザイナーを含めた全スタッフにとって、日々の業務を見つめ直す良い機会となりました。

この日の「学び」を忘れず、日々の業務に活かし、さらなる成長を目指してまいります。

cafe marble "" 懇親交流会

> 職員研修後、cafe marble さんというカフェにて、懇親交 流会を行いました。各々好き な飲み物やケーキを楽しみな がら、交流をふかめました。



